

「やっぱり 最高の6年生！」



東部教育事務所長表彰に輝く！

卒業式を控え、嬉しい知らせが届きました。6年生が取り組んだ、ボランティア掃除が認められ、標記表彰を頂く快挙を成し遂げました。

その本質は、褒められるためでもなく、ただ一心に学校のため、全校のためという子供たちのボランティア精神にあるのだと思います。私は、見返りを求めない、純粹で無垢な心にこそ光が当てられるべきではと考えます。その意味で、最高に嬉しい受賞です。この伝統、本校の卒業生が綿々と続けてきたもの。今回の受賞の意味をかみしめ、5年生以下、下級生にもぜひ引き継いでいってほしいと願っています。



6年生のコメント！

◎私は、毎日朝の掃除をした後、心がすっきりしました。学校のために、みんなのためにやることは楽しいということだと気づきました。だから私は、中学校になっても大人になっても、人のためにたくさん頑張ろうと思います。

◎渡り廊下は、10分間が早く感じました。廊下に葉っぱがなくなると、心がスッキリしました。僕は1年間朝掃除が続けることができたので、これからは、他のことも続けていきたいです。

◎自分は掃除が苦手でした。けどいつも朝掃除をしたおかげで、心がスッキリしていつもが楽しくなりました。中学生になっても、1年間学校の朝掃除で学んだことを生かしていきたいです。

なお、この快挙、市報にも取り上げていただく予定となっていますので申し添えます。

☆最後の授業！ ～テーマ：志があれば～

3月14日、新たな世界（中学校）へ旅立つ6年生に向け、退職前、最後の授業をさせていただきました。その内容を紹介します。

【始め】

Q あなたの志（夢）は？

Q 志があれば、夢は叶うのだろうか？

【なか】

※ある野球少年が歩んだ険しい道

○チームの主軸として活躍した少年時代

○中体連を半年後に控え直面した悲劇

○難病を乗り越え中体連優勝を果たした夏

○甲子園への道（志が支えた病気との闘い）

○病気を自覚し大学野球へ

【終わり】

Q 思ったこと考えたことを書き、友達と交流しよう！

“志、夢中になるものがあれば

無敵になれる。”私は、そう信じてやみません。子供たちが将来

来出会うであろう壁、困難に

どう立ち向かうか。その時の道標になれば。子供たちにエールを送る、その一心で臨んだ45分でした。いつまでも応援してます！



子育てアラカルト 2！ ～逞しさと優しさ～

“タフでなければ生きて行けない。優しくなければ生きている資格がない。”これは米国の作家、レイモンド・チャンドラーの小説『プレイバック』の中に出てくる一説。この考え、日本の将来を担っていく子供たちに身に付けてほしい不易の資質だと思います。これは、学校教育目標の土台に据える「耐性」に相通するものがあります。

皆さん、ご存じでしょうか。一世を風靡した時代劇、水戸黄門。その主題歌の歌詞はこう。「人生楽ありや苦もあるさ～。挫けりゃ誰かが先に行く～。歩いて行くんだしっかりと、自分の道を踏みしめて～」苦労の先にしか見えない輝きを、本校の子供たちには味わってほしいと願ってやみません。

「苦労は買ってでも…」子の頑張りを見守り、壁を乗り越える手助けをするのが親や教師の務め。子供たちが、自分の足で人生を逞しくも優しく生き抜いていくためにも。

そう言えば、世界体操6連覇の内村航平さんのお母さんは、かく語りき。

「何にでも手を差し伸べるのではなく、見守る勇気を！」と。

